

憲法改悪反対！ 軍拡より平和外交を！

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA班新聞

5・12 千葉県憲法集会①

講演：新しい戦前にさせないために

講師：落合恵子氏

5月12日(日) 13時20分より、県教育会館5Fで千葉県協議会の主催で開催され、116名の参加がありました。貴重な話ばかりでしたがこの紙面では掲載しきれないため、印象に残った順に書き進めていきます。

主催者・来賓あいさつ

改憲の議論は活発に進められている。国民は主権者と言いつつも現実にはどうなのか。自分たちの生活の中に、憲法が見える(実感出来る)世の中にしたい・・・といさつがありました。

講師、冒頭あいさつで

会場で配布されたしじゅめの講師プロフィールで「日本の作家」とあり、「何で日本という言葉が必要なんですか」という指摘と「この集会用にこちら



から写真を送らせてもらいましたが、それは使われずにかなり昔の写真を(勝手に)使われました」と壇上から抗議されました。

3月の平和集会以て、この主催団体は詰めが甘いなあ・・・。「こんなことで本当に憲法が守れるんですか」と言われるのも仕方ないです・・・。

生い立ちから現在

私たちの年代だとやはりラジオのディスクジョッキーというイメージが強いですが、権力者側

に立った実況生中継に対して、生放送中に異議を唱えたところ降格の話となり、そこで吹っ切れたそうです。ラジオ界を去ったのち、小説やエッセイ等の作家活動に転身されたとのことでした。

現在は、絵本を製作、販売する「クレヨンハウス」を主宰する代表という肩書きも持っています。女手ひとつで育てられた幼少期、極貧の中、差別や偏見などと闘いながら必死に生きた母親の姿に「自分の原風景はここに」といった言葉に胸を打たれました。

反原発集会への参加

3・11の東日本大震災から始まった代々木の反原発集会も、今年は能登半島地震の影響で参加者が増えたことについて「(逆に)こういったリアルな現実がないと、参加者は増えないのか」といった旨の問題提起がされ、自分自身の運動の弱さも痛感した次第です。



海外メディアの勘違い

能登半島地震のあの寒々しい、フライバシもなく、衛生的にも問題があった避難所風景を海外メディアが「日本の年寄りはずこいー寒いと言わない、泣かない、弱音をほかない、薬がなくても我慢している・・・」といった旨の報道をしたことについて触れました。

軍拡より福祉医療を

また、台湾地震と能登半島地震の違いでは、台湾は日本の避難所対応を参考にしたのに、完全に日本のレベルを追い越していることが、報道でも明らかにされました。何かにつけて、日本の物資的なしレベルの低さが目立ちます。軍事費なんかより、こちらが最優先のはずでは……！

まだ間に合うなら、今からでも声を上げようよ！